

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日 平成26年4月22日（火）

3 調査対象 第6学年

4 留意事項

- ・ 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- ・ 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないが、これを一つの資料として本校の傾向や課題を分析するとともに、指導改善のポイントを併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

【国語A】

領 域 等	全国と本校の比較 ※	平均正答率（％）	
		宇都宮市	全国
話すこと・聞くこと	同程度	74.9	72.4
書くこと	下回る	73.4	72.2
読むこと	同程度	69.7	68.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	同程度	77.8	73.7

【国語B】

領 域 等	全国と本校の比較 ※	平均正答率（％）	
		宇都宮市	全国
話すこと・聞くこと	やや下回る	51.9	51.2
書くこと	下回る	34.0	34.4
読むこと	下回る	57.5	57.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	下回る	70.5	69.8

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・国語Aの「目的に応じて話合いの観点を整理すること」では全国平均をやや下回るが、ほかの設問は同程度だった。
- 司会等の発言により、要旨を適宜振り返られるようにしながら、話題や議題に沿った話合いの仕方を指導する。

【書くこと】

- ・どの設問も全国平均を下回っていたが、特に国語Bの「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く」は大きく下回っている。また、「二つの詩を比べて読み自分の考えを書く」では、無回答率が50％で全国のおよそ2倍であった。
- 字数制限を設けた作文指導や練習を行う際、目的や意図を明確にし、自分の考えと引用部分の整合性を図るよう指導する。また、原文の正確な抜き出し方や適切な量、書いた分の見直しなどを指導する。

【読むこと】

- ・国語Aでは「情景描写の効果を捉える」設問で、国語Bでは「課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む」や「詩の表現の工夫を捉える」設問で全国を大きく下回っている。
- 文章の構成、表現、書き方などの表面的な内容や作者の意図を読み取るために、分析的な読み取り方を指導するとともに題名や文末表現からの要点の読み取りを指導する。また、効果的な読書活動の充実を図る。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・漢字の読み書きや故事成語の意味と使い方では全国平均を上回るものが多かったが、国語Aでも国語Bでも書くことや読むことと関連している設問で全国平均を下回っている。
- 習得した語句を文や文章の中で進んで適切に使うよう、日常生活の中でも確認させながら継続的に指導する。

※「全国と本校の比較」について

上回る …全国平均より5％以上、上回っている。
 やや上回る…全国平均より3％以上5％未満、上回っている。
 同程度 …全国平均との差が上下3％未満である。
 やや下回る…全国平均より3％以上5％未満、下回っている。
 下回る …全国平均より5％以上、下回っている。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

- ・国語に関する質問のうち、「国語の勉強は好き」や「国語で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」などは、肯定的な回答の割合が全国平均をやや上回っているが、国語の授業中の「話す」「書く」「読む」のようすや「読書が好き」については、肯定的な回答の割合がすべて下回っている。
- 授業の中で、「段落や話のまとまりを意識した読み取り」、「話の組み立ての工夫の仕方」、「目的に応じた資料の読み方」、「自分の考えの書き方」などを意識して指導する。また、学校図書館司書と連携しながら、読書の習慣化を目指した図書室の利用を促進する。

2 算数

【算数A】

領 域 等	全国と本校の比較 ※	平均正答率 (%)	
		宇都宮市	全国
数と計算	同程度	82.2	81.8
量と測定	下回る	76.4	74.8
図形	同程度	74.5	71.8
数量関係	同程度	84.2	81.3

【算数B】

領 域 等	全国と本校の比較 ※	平均正答率 (%)	
		宇都宮市	全国
数と計算	やや下回る	62.6	61.3
量と測定	やや下回る	58.0	56.5
図形	上回る	67.5	65.7
数量関係	下回る	57.1	56.2

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

【数と計算】

- 算数Aでは「比べられる量を求める式」で全校平均を上回っているが、「小数第一位までの減法」では下回っている。算数Bでは、工夫して計算する方法を記述したり公倍数を使って考えたことを記述したりする設問で全国平均を下回っている。
- 既習の計算問題を、復習問題として継続的に取り組ませる。また、授業の中で文章問題を扱う際に、考え方を説明したり記述したりする機会を増やす。

【量と測定】

- 算数Aでは、「単位量当たりの大きさを調べる場面と図を関連づけることができる」設問で全国平均を下回っている。算数Bでは、示された情報を基に条件に合う時間を求めることができる」設問で全国平均を上回っているが、棒グラフの棒が枠内に入らない理由や必要な量と残りの量の大小を判断してその理由を記述する設問で全国平均を下回っている。
- 文章問題では、立式したり判断の理由を説明したりするのに必要な部分に下線を引かせ、解決の見通しを明確にしてから問題に取り組ませるようにする。

【図形】

- 算数Aではすべて全国平均と同程度で、算数Bでは長方形の敷詰め設問で全国平均を上回っている。

【数量関係】

- 算数Aではすべて全国平均と同程度で、算数Bでは数と計算や量と測定と関連した記述問題で全国平均を下回っている。
- 授業の中で文章問題を扱う際に、考え方を説明したり記述したりする機会を増やす。その際、友達の式を読み取り説明する活動や、友だちの考え方をを使って問題に取り組む活動を取り入れる。

※「全国と本校の比較」について

上回る …全国平均より5%以上、上回っている。

やや上回る…全国平均より3%以上5%未満、上回っている。

同程度 …全国平均との差が上下3%未満である。

やや下回る…全国平均より3%以上5%未満、下回っている。

下回る …全国平均より5%以上、下回っている。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

- 算数に関するほとんどの質問において、肯定的な回答の割合は全国平均と同程度であったが、「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」や「算数の問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」など解答意欲に関する質問について、肯定的な解答の割合が全国平均を下回っている。
- 自分たちに身近で必要感を感じられるような問題提示など、関心・意欲を高められ、進んで追究したくなるような問題提示を工夫し、進んで学習に取り組めるようにさせる。また、新たな学習場面に対して既習内容を生かして取り組めるような教材・学習環境を工夫したり、学習を通して身に付けたことを生活に生かしたりするような指導を意図的に入れる。